

## ■外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## ■外国語科の特質に応じた見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

## ■高知県が目指す授業づくりのコンセプト

### ○外国語科における「学びを変える」授業づくりとは

英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を通して資質・能力が育成されるよう学習過程を工夫することです。そのためには、単元を通してコミュニケーションの目的や場面に応じて、他者の考えや気持ちを理解したり、語彙や表現が言語の使用場面においてどのように使われているのかを捉えたりして、これまで慣れ親しんだ語句や表現を活用し、自分の考えをよりよく表現するなど見方・考え方を働かせながら資質・能力を育成していくことが重要です。

### ○外国語科における「学びをつなげる」授業づくりとは

領域別目標と関連付けられた学年ごとの学習到達目標を設定し、発達段階に応じて資質・能力を系統的に捉え、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することです。そのためには、小・中それぞれの段階でどのような言語材料を扱い、言語活動をしているのかを理解し、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から段階的に指導を行い、「見方・考え方」をさらに確かめ豊かなものにしていくことが大切です。

### ○外国語科における「学びを高める」授業づくりとは

単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題を設定した言語活動において、見方・考え方を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせるよう工夫することです。そのためには、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて既習の表現を含めて習得した知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることが重要です。

## ■外国語科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容

### ○言語活動の充実

各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について自ら学習を振り返ったりすることができるようにします。

### ○他教科等との関連

言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすることで、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。

### ○視聴覚教材等の効果的な活用

児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図ります。

三つの柱の資質・能力

**学びに向かう力、人間性等**  
 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

**知識及び技能**

工 文及び文構造  
 (7) d 疑問文のうち、疑問詞 what で始まるものについて理解すること。  
 このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

**思考力、判断力、表現力等**

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

言語習得のプロセス

- ① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。
- ② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

ゆっくりはっきりと話されれば、学級の友達の情報等について、具体的な情報を聞き取ることができる。

ていねいに注文したり、値段を尋ねたりする場面において、お互いのことについて知り合えるよう、自分たちの地域の食べ物について、賛成したり同意したりしながら友達と注文したり会計したりする。

What would you like? で始まる文及び、肯定文で、I'd like to で始まる文の文構造について理解する。  
 ていねいに注文したり、値段をたずねたりする場面において、既習の語句を聞き取ったりして、必要な情報を得る技能を身に付ける。

ていねいに注文したり、値段をたずねたりする場面において、お互いのことについて知り合うために、必要な情報を捉える。

《既習事項との関連》

◇食べ物や飲み物、味等を表す表現を場面とともに復習する。  
 「Fun! Fun! えいご」「Picture Dictionary」活用

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇食べ物や飲み物、味等関連した表現を確認できるように、拡大した picture card や一覧表を掲示する。  
 ◇デジタル教材を活用し、音声と映像を一致させる。

《他教科等との関連》

【算数】第3学年 3位数の加法の計算

主な資質・能力の系統  
 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと  
 ゆっくりはっきりと話された際に、ジェスチャーやイラスト、写真などがあれば、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句の意味を推測する。

第4学年 聞くこと  
 ゆっくりはっきりと話された際に、身近な人や身の周りの物に関する簡単な語句や基本的な表現が表すイラストや写真などを推測する。

本単元

第6学年 聞くこと  
 ゆっくりはっきりと話されれば、友達や家族、学校生活など身近で簡単な事柄についてある程度まとまりのある英語を聞いて必要な情報を得ることができる。

中学校第1学年 聞くこと  
 ゆっくりはっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについての短い説明や会話を複数回聞いて、話の概要を捉えることができる。

中学校第2学年 聞くこと  
 はっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについての説明や会話を複数回聞いて、話の概要を捉えることができる。

中学校第3学年 聞くこと  
 はっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについてまとまりのある説明や会話を聞いて、話の概要を捉えることができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：高知のおすすめの食べ物を注文したり会計したりする  
 お互いのことについて知り合えるよう、(目的) ていねいに注文したり、値段を尋ねたりする場面において(場面)、自分たちの地域の食べ物について、友達と注文し合ったり、会計したりする(状況)活動

T: 教師 C1: 中心となる児童 A/B/D: 児童 (a)(b)・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・見方・考え方を鍛える教師の手立て

● ていねいに注文したり値段を尋ねたりする場面について、おおよその内容を理解する活動。

・どのような英語が使われているか、必要な情報を聞き取る力。

・先生と好きな食べものについてやり取りする。

T: What food do you like?  
 C1: I like ステーキ and プリン!  
 T: Oh, you like steak and pudding! Me, too.

・Fun! Fun! えいご等を使って食べ物やデザート  
 の英語での言い方を知る。  
 ・ペアで、好きな食べ物について伝え合う。

B: What food do you like?  
 C1: I like steak and pudding. How about you?  
 B: I like omelet and parfait.

・レストランで注文している会話を聞いて、質問に答える。

T: (聞き取りのポイント) レストランで注文をするときはどんな表現が使われているか聞きましょう。(c)

店員さん: What would you like?  
 お客さん: I'd like pizza and salad. ...

C1: レストランのような場所でていねいに注文するときは、I'd like を使うんだな。(a)

・丁寧な言い方でペアでやり取りをして、相手が何を注文しているか聞き取る。

B: What would you like?  
 C1: I'd like steak and pudding.

・チャンツや歌を歌う。  
 ・音声や映像を視聴して答えを選んだり、音声を聞いて、文字を確認したりする。

● 食べたい料理を決めて、ていねいな表現で注文したり、注文を受けたり、値段を尋ね合ったりする活動。

・どのような内容が話されているか、必要な情報を捉える力。

・食べ物や飲み物の言い方について復習する。  
 ・先生と食べたいものについてやり取りする。(d)

T: What food do you like?  
 C1: I like gyoza.  
 B: I like ramen.  
 T: OK, let's go to ...  
 C1: Let's go to Chinese restaurant!  
 T: That's a good idea. Yes, let's!

C1: 「いいね」は、That's a good idea. と言えばいいんだな。

・食べたいものをペアで話し、どこで食べられるか考えて誘い合う。  
 ・先生と食べ物の値段についてやり取りをする。

T: How much is okonomiyaki?  
 C1: It's 340 yen.

・ペアで料理の値段を尋ね合う。

B: How much is the cake?  
 C1: It's 250 yen.

T: (聞き取りのポイント) 2つ以上の食べ物の値段を言うときの言い方を聞きましょう。

C1: 一つずつ値段を言って、合計した値段を言っているよ。(b)

・ペアで1000円以内のメニューを考えやり取りをし、値段を聞き取る。(c)

C1: How much is it?  
 B: A hamburger is 570 yen. A salad is 240 yen. 810 yen, please.

● ふるさとの食べ物について、友達と注文し合ったり会計したりする活動。

・どんな既習表現を使って伝えればよいか考えて表現する力。

・日本各地の食べ物も、何が好きか先生とやりとりする。(d)

T: What would you like?  
 A: I'd like a champon and mango juice.  
 T: What would you like?  
 B: I'd like ジンギスカン!  
 T: O.K. You like mutton B.B.Q!

・言いたかったが、言えなかったことを共有する。(b)

・自分たちの地域の食べ物で食べたいものを決めて、絵カードを用意し、ペアで注文し合う。

C1: What Kochi food would you like?  
 A: I'd like buntan. How much is it?  
 C1: It's 500 yen.

T: (中間評価)  
 工夫していることを共有する。  
 言いたかったけれど言えなかったことを共有する。

C1: 「屋台の餃子」って何て言ったらいいかな。  
 A: 餃子は gyoza でいいよね。屋台は、小さい店だから、small shop とか?  
 B: 通りにあるから、street small shop は?  
 T: Good! C, What Kochi food would you like?  
 C1: I'd like street small shop's gyoza.

・ペアを変えてたくさんの友達と会話し合う。

C1: What would you like?  
 D: I'd like nabeyaki ramen and coke. How much is it?  
 C1: Nabeyaki ramen is 780 yen. Coke is 180 yen. 960 yen, please.

見方・考え方を働かせる子供の姿

- 自分の食べたいものやほしいものについて伝えるために、聞き取るべき内容を判断している姿。
- ていねいに注文したり、値段をたずねたりする場面での会話を推測しながら聞くことで、自分の考えや賛成する気持ちを伝える言い方を理解するとともに、自分の気持ちや考えをよりよく伝えるために、表現を工夫している姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- 注文したり、値段をたずねたりする場面での会話を推測しながら聞かせることで、ていねいな言い方に着目させ、それらの表現に慣れ親しむ機会を設定する。
- 相手意識を持たせるために、目的、場面、状況を明確にするとともに、自分の気持ちや考えがよりよく伝わるように、ペアで自分たちの地域の食べ物について注文し合う場面の設定をする。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

イ 文字及び符号  
(ア) 活字体の大文字について理解すること。  
活字体の大文字と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読み、語順を意識しながら書いたりすること。

言語習得のプロセス

- ① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。
- ② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

活字体で書かれた大文字を認識し、その読み方を発音することができる。

新しいクラスの友達やALTと互いをよく知るために、名前のスペリングを発音したり識別したりしようとする。

アルファベットの活字体の大文字について理解する。  
アルファベットの活字体の大文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付ける。

新しいクラスの友達やALTと互いをよく知るために、名前のスペリングを発音したり、識別したりする。

《既習事項との関連》

◇好きなものや持っているもの、欲しいものを表す表現を場面とともに復習する。「Fun! Fun! えいご」のpicture card 活用(P35、47)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇文字を絵カードと合わせて提示する。  
◇文字を音により色分けして表示する。  
◇表示する字体を揃える。  
◇デジタル教材を活用し、音声と映像を一致させる。

《他教科等との関連》

【国語】第3・4学年  
日常使われている簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読む活動

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと  
文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の大文字を認識する。

第4学年 聞くこと  
文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の小文字を認識する。

本単元

第6学年 読むこと  
活字体で書かれた小文字を識別し、その読み方を発音することができる。

中学校第1学年 読むこと  
音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。

中学校第2学年 読むこと  
日常的な話題について、ヒントを示せば、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。

中学校第3学年 読むこと  
日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：友達やALTに名前や好きなもの(こと)などを伝え、自己紹介をする  
新しいクラスの友達やALTと互いをよく知るために(目的)自己紹介する場面において(場面)名前の文字を読み合う(状況)

T: 教師 C1: 中心となる児童 A/B/D: 児童 (a)(b)・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●名刺カードを見せながら名前の文字を発音し、自分の名前と好きなものを簡単な文で友達と伝え合う活動。

●自己紹介するために自分の名前のスペリングを識別してその読み方を発音して伝える力。

●ALTの自己紹介を聞く。

Hello, everyone.  
My name is Richard Wood.  
Nice to meet you. I'm 24 years old.  
I'm from Australia.  
I like pizza. Pizza is delicious. ...

●ALTと担任のやり取りを聞く。

T: Thank you, Rich...  
Sorry, what's your name?  
ALT: My name is Richard Wood.  
T: How do you spell your name?  
ALT: R-I-C-H-A-R-D, Richard, W-O-O-D, Wood.  
T: I see. R-I-C-H-A-R-D, Richard, W-O-O-D, Wood. Nice to meet you.  
My name is Nagao Koji.  
ALT: How do you spell your name?  
T: N-A-G-A-O, Nagao, K-O-J-I, Koji.  
ALT: Oh, Mr. Nagao.  
Nice to meet you too.

T: ALTの先生は、どうやって名前を伝えていましたか。(中間評価)(c)  
C1: 名刺を見せて、名前の文字を一文字ずつ伝えたと初めて聞く人にも伝わるな。(a)  
●自分の名刺を作り、自己紹介をする。

名刺カード

T	A	K	U	M	I
---	---	---	---	---	---

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 名前を表す文字はどの文字か、その読み方を考えている姿。
- (b) 友達やALTの自己紹介を聞いて、名前の文字を見ながらその読み方の発音を確認している姿。

●友達の情報を得るために、自分の名前や好きなものに加え、欲しいものなどを友達と伝え合う活動。

●自己紹介で友達の名前のスペリングを理解するために、名前のスペリングを識別したり発音したりする力。

●自己紹介をして、友達の名前のスペリングを知る。

C1: Hello. My name is Harada Takumi.  
H-A-R-A-D-A, Harada, T-A-K-U-M-I, Takumi. Please call me, Takumi.  
B: My name is Ueno Rin. U-E-N-O, Ueno, R-I-N, Rin.  
C1: R-I... これって何て読むの?  
B: "N(エヌ)".  
C1: O.K! R-I-N, Rin. Nice to meet you.  
I like baseball. It's very fun.

T: 分からない文字がある時は、どう質問するといいですか。(中間評価)

C1: What's this?を使うといいんじゃないかな?

D: My name is Kawada Naoya.  
K-A-W-A-D-A, Kawada, N-A-O-Y-A, Naoya. Please call me, Naoya.  
C1: What's this?  
D: It's "Y(ワイ)".  
C1: K-A-W-A-D-A, N-A-O-Y-A, Naoya.  
I like baseball. I want a new glove.

●友達の情報カードを作成するためにアルファベットカードを選ぶ。

友達カード		
名前	好きなもの	欲しいもの
N A O Y A		

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 活字体で書かれた文字に意識が向くように、名刺カードを見せながら自己紹介させる。
- (d) 児童がスペリングを発音した後に、ALTに伝わったかどうかを確認させる。

●ALTや友達と名刺交換をして自己紹介をする活動。

●ALTや友達に自分の名前のスペリングを理解してもらったり、ALTや友達の名前のスペリングを理解したりするために、大文字の活字体を識別したり発音したりする力。

●ALTと自己紹介し合う。

C1: Hello. My name is Harada Takumi.  
H-A-R-A-D-A, Harada, T-A-K-U-M-I, Takumi. Please call me, Takumi.  
ALT: Can you say that again?

T: リチャード先生はどのように伝えてくれましたか。自分とは違っていたところはありませんか。(中間評価)(d)  
C1: 一文字ずつゆっくりと、文字を指しながら言ってくれたり、分かったかどうか確かめながら言ってくれた。(b)

C1: Hello. My name is Harada Takumi.  
H-A-R-A-D-A, Harada, T-A-K-U-M-I, Takumi. Please call me, Takumi.  
ALT: Oh, Takumi. Nice to meet you.  
My name is Richard Wood.  
R-I-C-H-A-R-D, Richard. O.K?  
C1: Yes.  
ALT: W-O-O-D, Wood. Please call me, Richard.  
C1: R-I-C-H-A-R-D, Richard, W-O-O-D, Wood. Richard sensei. Nice to meet you too. I like baseball very much. It's very fun. I want a new globe. What sport do you like? ...

●ALTの先生と名刺交換する。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

② 言語の働きに関する事項 (1) 特有の表現がよく使われる場面 食事の場面においてよく使われる特有の表現を理解すること。このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

言語習得のプロセス

- ① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。
② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。
③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。
④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりすることができる。

自分が食べたいものを注文するために、レストラン等、食事を注文する場面において、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合おうとする。

I would like~/How much~/などの丁寧な注文したり値段を尋ねたりする表現について理解する。 レストラン等、食事を注文する場面において、丁寧に注文したり値段を尋ねたりする表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う技能を身に付ける。

自分が食べたいものを注文するために、レストラン等、食事を注文する場面において、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う。

《既習事項との関連》

- ◇好きな食べ物や欲しいものを表す表現を場面とともに復習する。
◇「Fun! Fun! えいご」の picture card 活用 (P22~25、46~57)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

- ◇言語の使用場面を意識できるよう、場面の写真や picture card、メニュー表等を活用する。
◇デジタル教材等を活用し、音声と映像を一致させたり、写真を指しながら看板やメニュー表を読んだりする機会を設定する。

《他教科等との関連》

- 【国語】第5・6学年 「敬語の使い方」
【家庭】第5・6学年 「栄養を考えた食事」

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 話すこと [やり取り]
自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを伝え合う。

第4学年 話すこと [やり取り]
自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを伝えたり、反応したりする。

本単元

第6学年 話すこと [やり取り]
日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたり、それに反応したりすることができる。

中学校第1学年 話すこと [やり取り]
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

中学校第2学年 話すこと [やり取り]
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをメモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

中学校第3学年 話すこと [やり取り]
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：レストランで店員と注文するものについて、やり取りする

高知の食材を生かした食事をすすめるために (目的) 飲食店で注文する場面において (場面) 食べるものについてやり取りする (状況)

T:教師 C1:中心となる児童 A/B/D:児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●料理の注文をしたり、値段を尋ねたり答えたりする活動。

・場面によって丁寧な表現があることに気づき場面に応じて表現する力。

・レストランで注文する場面のやり取りを行う。

A : What do you want?
C1 : I want curry. ....

・レストラン等で注文する場面の対話を聞く。(教師は二役) (c)

(レストランに向かいながら)
T : What do you want?
ALT : I want pizza. How about you?
T : I want omelet.
ALT : OK.

(レストランで) T:店員、ALT:客
T : What would you like?
ALT : I'd like pizza.
T : How about a drink?
ALT : I'd like a healthy drink. I'd like milk.
T : Sounds nice.

ALT : How much is it?
T : It's 800 yen, please.
ALT : Here you are..

T : 自分たちのやり取りと違うところはなかったでしょうか。(中間評価)

C1: 英語でも場面や相手によって言い方が変わるんだな。(a)

・レストランで注文する場面のやり取りを行う。

A : What would you like?
C1 : I'd like spaghetti. ....

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) ほしいものを伝えるとき、伝える相手との関係によって表現が違うことに気付いている姿。
(b) 自分の考えや気持ちが相手により分かりやすく伝えるために、話す内容や話し方を工夫している姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 目的や場面、状況などを明らかにして、スモールトークなどでやり取りを行い、場面に応じた表現を提示する。
(d) 客・店員両方の立場を経験させることを通して、場面や相手との関係によってどのような内容や表現が適切か整理する。

●自分の大切な人のために考えたメニューについて、理由を含めて話したり、相手の説明を聞いて感想を伝え合ったりする活動。

・自分の考えたメニューを紹介したり、その感想を伝えたりする力。

・自分の考えたメニューをALTに伝える。

ALT: What would you like?
C1 : I'd like curry and rice, salad, orange juice and parfait. This meal is for my sister.
ALT: Oh, your sister likes curry and rice.

C1: 「妹はカレーが好き。」を付け加えると、うまく表現できるかな。

・友達とやり取りする。

A : What would you like?
C1 : I'd like curry and rice, salad, orange juice and parfait. This meal is for my sister. Curry and rice is my sister's favorite food.
A : I'd like omelet. ....

T : 絵を見せながら確認していましたね。(中間評価)

C1: 絵カードを指しながら紹介すると相手に伝わりやすいな。

B : What would you like?
C1 : I'd like corn soup, curry and rice, salad, orange juice and parfait. This meal is for my sister. Curry and rice is my sister's favorite food. Parfait is sweet. This is perfect for my sister.
B : That is nice.

●レストランで自分の考えや気持ちを含めてやり取りする活動。

・伝える相手によって工夫して伝えたり、相手の言ったことに応じて自分の考えを伝えたりする力。

・高知の食材を生かしたメニューを見ながら注文する。

(A:店員、C1:客)

～お店の人に注文する～
A : What would you like?
C1 : I'd like a pizza.
A : Do you like eggplants? This is "Kochi eggplant pizza". It's tasty.

C1 : Um. OK. I'd like "Kochi eggplant pizza".
A : How about a dessert?
C1 : I'd like parfait.
A : Buntan parfait or strawberry parfait?
C1 : I'd like buntan parfait.
A : Nice.

(レジで)
C1 : How much is it?
A : It's 900 yen.
C1 : Here you are.
A : Thank you.

T : 店員さんはどんな工夫をしておすすめしていましたか。(中間評価)

C1: 相手に何が好きか聞いたりして、お客さんの反応を見ながら伝えるといいな。(b)

・役割や相手を変えながら、繰り返しやり取りをする。(d)

### 三つの柱の資質・能力

#### 学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

#### 知識及び技能

文及び文構造

(P)e 代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むものを理解すること。  
このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

#### 思考力、判断力、表現力等

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

#### 言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

#### 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分に関することについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、できるだけたくさん話すことができる。

学級の友達や先生に自分の考えや気持ちを知ってもらえるように、自分のあこがれの人やその理由について、工夫して伝え合おうとする。

She can ~./He is ~. など基本的な代名詞を含む文について理解する。  
あこがれの人やその理由について、She can ~./He is ~. などの簡単な語句や文を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付ける。

学級の友達や先生に自分の考えや気持ちを知ってもらえるように、自分のあこがれの人やその理由について、工夫して伝え合う。

#### 《既習事項との関連》

◇ 状態・気持ち、動作、スポーツ、日課、職業、家族等についての既習表現を場面とともに復習する。

#### 《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇ リズムやイントネーションを手の動きで示す。  
◇ 状態や気持ちを表す表現を確認できるように絵カードを掲示する。  
◇ デジタル教材を活用し、音声と映像を一致させる。

#### 《他教科等との関連》

【国語】第3・4学年 A 話すこと・聞くこと（1）ア【特別活動】学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 話すこと（発表）  
自分の好き嫌いについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す。

第4学年 話すこと（発表）  
自分の好き嫌いや欲しいものなどについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す。

本単元

第6学年 話すこと（発表）  
自分に関することについて簡単な語句や基本的な表現を用いて、内容を整理しながら話すことができる。

中学校第1学年 話すこと（発表）  
日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

中学校第2学年 話すこと（発表）  
日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

中学校第3学年 話すこと（発表）  
日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：自分のあこがれの人について、互いに紹介し合う

自分の考えや気持ちをよく知ってもらうために（目的）学級で紹介する場面において（場面）あこがれの人やその理由などを伝え合う（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D：児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

● あこがれの人を紹介する話を聞いて概要を捉えるとともに、自分や友達ができることについて尋ねたり言ったりする活動。

- 既習表現を使って、できることを尋ねたり話したりする力。友達ができることについて、分かったことを表現する力。

● 先生の話聞いて概要を捉える。

Who is your hero? My hero is my grandfather. He is a doctor. He is kind to everyone. He is good at cooking. He can make sashimi. He is cool. I love him.

C1：先生のヒーローはおじいちゃんなんだね。刺身が作れるなんて、すごいな。

● できることを尋ねたり答えたりする。

A：Hello. Can you play kendama?  
C1：Yes, I can. Can you play the piano?  
A：No. But I can play the guitar.

● やり取りを通して分かった友達ができることを伝え合う。

C1：This is A san. A san can play the guitar.  
B：This is D san. He can swim fast. He is cool.

C1：そうか！He とか She が使えるんだ。(a)

T：Bさんは、自分の気持ちも伝えていましたね。(中間評価)(c)

● やり取りや中間評価をもとに内容を整理し、友達ができることを紹介する。(a)

C1：This is A san. She can play the guitar. She is great.

● 第三者のできることや得意なことを伝え合う活動。

- 新しく獲得した表現や既習表現を使い、第三者のできることや得意なことを話す力。

● ALT の話を聞いて概要を捉える。

This is my friend, Maria. She likes Japan. She is good at speaking Japanese. She can do kendama. She gives me energy when I am lonely. She is my hero.

C1：日本語が得意って言っているのかな。good...何だっけ？聞いてみよう。(a)

● ALT の話を参考に、得意なことを付け加えて友達について紹介する。(a)

C1：This is A san. She can play the guitar. She is good at singing. She is great.  
D：B san is cool. She can play basketball. She is good at dribbling. She is active.

T：C1さんは友達の名前から、Dさんは自分の気持ちから伝えていましたね。どちらの順番でも伝えることができますね。(中間評価)(d)

● やり取りや中間評価をもとに、あこがれの人について紹介する内容を考える。(a)

C1：お兄さんについて伝えたいな。Dさんみたいに、自分の気持ちから伝えてみよう。(b)

C1：My brother is cool. He can play soccer. He is good at shooting. He is my hero.

● 他者に配慮しながら、自分の考えや気持ちなどを含めてあこがれの人を紹介し合う活動。

- 情報を整理し、聞き手が理解できるように配慮しながら、あこがれの人を紹介する力。

● ペアを替えて、2、3人の友達とあこがれの人を紹介し合う。

C1：「お兄さん」と分かるように、始めに年齢を言おう。走るのが速いことも伝えたいな。(a)(b)

C1：My brother is cool. He is seventeen. He can play soccer. He is good at shooting. He can run fast. He is my hero.

A：My hero is E sensei. She can sing well. She can play the piano, too. She is good at speaking English. She is my hero.

B：D san is my hero. He can swim fast. He is good at drawing animals. He is kind to everyone. I like him. He is my hero.

T：友達の記事で、よかったところや取り入れたところは何か。(中間評価)(c)

C1：できることを2つ話すから、Aさんみたいにtooを使おう。Bさんの「I like him.」を「大好き」に替えて伝えたいな。shootingが伝わらなかったから、ジェスチャーを付けてみよう。(a)(b)

● あこがれの人を発表する。

C1：My brother is cool. He is seventeen. He can play soccer. He is good at shooting. He can run fast, too. I like him very much. He is my hero.

#### 見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 自分の考えや気持ちを知らしてもらうために、伝える内容を選択し、あこがれの人を紹介する表現を考えている姿。
- (b) 分かりやすく伝えるように、伝える順番を決めたり、反応を確かめながら話したりしている姿。

#### 見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) やり取りや発表を振り返る場を設定し、友達の表現のよさや工夫に気付かせる。
- (d) 聞き手の反応を確かめながら話すことを意識付け、自分の考えや気持ちがよりよく伝わる工夫を考えさせる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

文及び文構造

(ア) d 疑問文のうち、疑問詞 (where, why) で始まるものを理解すること。このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いていくこと。

言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見直しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：高知県のよさをリーフレットにまとめ、外国から来た観光客に紹介する観光客に高知県のよさを知らせてもらうために(目的)空港や港で紹介する場面において(場面)おすすめする地域でできることやその様子を伝える(状況)

T: 教師 C1: 中心となる児童 A/B/D: 児童 (a)(b)・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●行ってみたい都道府県について伝え合う活動。

・繰り返したり質問したりしながら、やり取りを通して各都道府県について伝える力。

I love snowboarding. So I want to go to Hokkaido. I can snowboard. I can eat potatoes, scallops and corns. I like roasted corns very much. Where do you want to go?



・教師の話聞いた後、友達とやり取りをする。

A: I want to go to Tokyo. C1: Why? A: I want to eat monjayaki. C1: I want to go to Okinawa. A: Why? C1: I want to swim in the beautiful sea.



C1: 会話が續かないのはどうしてかな。

T: 会話が繼續しているペアを取り上げ、何が違つのかを考えさせる(中間評価)

C1: 友達が言ったことを繰り返したり、質問したりしているからだ。まねしてみよう!

A: I want to go to Tokyo. C1: You want to go to Tokyo. Why? A: I want to eat monjayaki. C1: I see. Do you like monjayaki? A: Yes. How about you? C1: I don't like monjayaki.

・「I want to go to～」の後に自分が行きたい都道府県名を書き写す。

●高知県内でおすすめしたい地域のアピールポイントについて伝え合う活動。

・単語や文の一部を、これまでに慣れ親しんできている自分が伝えたい表現を用いて書く力。

・友達とやり取りを行う。

C1: This is Nakatoso Town. I can eat かつおのたたき. It's delicious. Do you like かつおのたたき? A: Yes, I do. I like かつおのたたき too. C1: 中土佐町に行けば、とってもおいしいかつおのたたきが食べられるよって教えてあげたいな。

T: いいところに気が付きましたね。そんなふうに教えてもらったら、きっと外国から来た人も中土佐町に行きたくなりますね(c)(中間評価)

A: 自分が～できるときは「I can...」で言うから「あなたが～できる」ときは「You can...」って言えばいいんじゃない?

C1: なるほど。だったら、リーフレットに書くときも「I can」ではなく「You can」で書けばいいんだね。(a)

・再度やり取りを行った後、自分がおすすめしたい地域について、ワードボックスから選んで書き写す。

This is (Nakatoso Town). You can (eat) (fresh fish).

●これまで学習したことをもとに、高知県のよさを伝えるリーフレットを書く活動。

・高知県のよさを知らせてもらうために読み手を意識しながら書く力。

写真

This is Nakatoso town. You can eat fresh fish.

This is Tosa city. You can eat buntan.

イラスト

A: あれ? 英語が全部くっついてるところは読みづらいなあ。反対に間が空きすぎているところもあるよ。

T: 自分が伝えたい高知県のよさを外国の方に分かってもらうには、どのように書けばいいですか?(中間評価)(d)

C1: 語と語の区切りは意識しないとね。でも、スペースを空けすぎてもいけないし...。読んでくれる人のことを考えて書かないとね!(b)

・共有したことをもとにリーフレットを仕上げ、外国から来た観光客に高知県のよさを伝える。

C1: Where do you want to go? Do you like fresh fish? Do you like hot springs? This is Nakatoso Town. You can eat fresh fish. I like fresh fish. It's delicious. You can enjoy hot springs. It's great. Please go to Nakatoso Town.



「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分のことや身近で簡単な事柄について、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

外国から高知に来た観光客に高知県のよさを知らせてもらうために、おすすめする地域のアピールポイントについて、やり取りを通して十分慣れ親しんだ語句や表現を書き写そうとする。

Where do you want to go?/I want to~/It's ~について理解する。おすすめする地域について、You can ~./It's ~.などを用いて伝えたいことを書く技能を身に付ける。

外国から高知に来た観光客に高知県のよさを知らせてもらうために、おすすめする地域のアピールポイントについて、やり取りを通して十分慣れ親しんだ語句や表現を書き写す。

《既習事項との関連》

◇動作や状態、気持ちなどを表す表現を場面とともに復習する。「Fun!Fun!えいご」のピクチャーカード活用(p30・p31)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇文字の線の長さや高さ等について、正しく書き写すことができるように、四線ワークシートを準備する。◇ワークシートに自分の考えや気持ちを書く際には、英単語ではなく、イラストや日本語で記入してもよいこととする。

《他教科等との関連》

【社会】 第4学年 「わたしたちの県」 第5学年 「わたしたちの国土」「わたしたちの生活と食料生産」

主な資質・能力の系統 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の大文字を認識する。

第4学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の小文字を認識する。

本単元

第6学年 書くこと 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書くことができる。

中学校第1学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをメモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第2学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第3学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて文章構成の特徴を意識しながら、まとまりのある文章を書くことができる。

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 誰に何のためにリーフレットを作るのかという目的意識をもって書こうとしている姿。(b) 語と語の区切りを意識して書くことが、自分が伝えたいことを読んで分かってもらうためには必要であると気付いている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 相手の立場に立って表現しようとしている姿を価値付け、何のために書くのかという目的意識を明確にする。(d) 高知県のよさを知らせてもらうためには、読み手に伝わるように書くことが必要であるということに気付かせる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

Ⅰ 文及び文構造

(7) d 疑問文のうち、疑問詞 (what) で始まるもの及び肯定文で I want to ~ で始まるものについて理解すること。

このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

Ⅱ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

ゆっくりはっきりと話されれば、友達や家族、学校生活など身近で簡単な事柄についてある程度まとまりのある英語を聞いて必要な情報を得ることができる。

互いの思い描く中学校生活について知り合うために、中学校で自分が入りたい部活動や楽しみな学校行事について発表する場面において、互いのスピーチの内容を捉えようとする。

What do you want to ~ で始まる文及び肯定文で、I want to ~ で始まる文の文構造について理解する。

中学校生活について、I want to ~ などを用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、既習の語句（数字や曜日を表す語）を聞き取ったりして、必要な情報を得る技能を身に付ける。

中学校で自分が入りたい部活動や楽しみな学校行事について発表する場面において、互いの思い描く中学校生活について知り合うために、必要な情報を捉える。

《既習事項との関連》

◇数字や曜日、学校行事等を表す表現を場面とともに復習する。「Fun Fun! えいこ」の picture card 活用 (P78~81)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇数字や曜日、学校行事等関連した表現を確認できるように一覧表を掲示する。  
◇デジタル教材を活用し、音声と映像を一致させる。  
◇中学校生活の様子の映像を見せてイメージを持たせやすくする。

《他教科等との関連》

【国語】第6学年 インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それを発表したりする活動

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと

ゆっくりはっきりと話された際に、ジェスチャーやイラスト、写真などがあれば、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句の意味を推測する。

第4学年 聞くこと

ゆっくりはっきりと話された際に、身近な人や身の周りの物に関する簡単な語句や基本的な表現が表すイラストや写真などを推測する。

第5学年 聞くこと

ゆっくりはっきりと話されれば、友達や家族、学校生活など身近で簡単な事柄についてイラストや写真を見ながら聞き、必要な情報を得ることができる。

本単元

中学校第1学年 聞くこと

ゆっくりはっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについての短い説明や会話を複数回聞いて、話の概要を捉えることができる。

中学校第2学年 聞くこと

はっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについての説明や会話を複数回聞いて、話の概要を捉えることができる。

中学校第3学年 聞くこと

はっきりと話されれば、身近な人や学校生活などについてまとまりのある説明や会話を聞いて、話の概要を捉えることができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：中学校生活について友達とやり取りして聞いたことなどを基に、自分の考えや気持ちをスピーチする

ALT や友達に自分のことを知ってもらうために（目的）学級で紹介し合う場面において（場面）中学校で入部したい部活動や楽しみな行事について、友達とやり取りして聞いたことなどを基に発表する（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D：児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●中学校生活で楽しみな部活動について、必要な情報を聞き取り、友達と伝え合う活動。

・必要な情報を聞き取り、その内容から自分のことを伝えるために言葉を選ぶ力。

・先生と中学校生活についてやり取りする。

T : What club do you want to join?  
C1 : The track and field club!  
T : Oh, you want to join the track and field club.

・中学生が中学校生活について話すのを聞いて、どんな部活動があるか聞き取る。

In junior high school, you can enjoy club activities. We have a soccer team, volleyball team, arts club and English club. ...

C1: 中学校にはいろいろな部活動があるんだな。何部に入ろうかな。(a)

・友達と、中学校で何部に参加したいか伝え合う。

A : What club do you want to join?  
C1 : I want to join the track and field club . How about you?  
A : I want to join the English club.

T : アメリカの小学生のマーク君は入りたい部活についてどのように紹介しているでしょうか。(聞き取りポイント)(c)

Hello, everyone. I'm Mark. I want to join the tennis club. I want to be a tennis player. ...

・友達ともう一度伝え合う。

A : What club do you want to join?  
C1 : I want to join the track and field club . I like running. How about you? ...

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 自分の入りたい部活動や楽しみな学校行事について伝えるために、聞き取るべき内容を判断している姿。
- (b) スピーチやインタビューなどの内容を推測しながら聞くことで、自分の考えや思い、理由を伝える表現について理解するとともに、自分の気持ちや考えをよりよく伝えるために、表現を工夫している姿。

●中学生のスピーチを聞いて小学校との違いを聞き取る活動。

・どのような内容が話されている、必要な情報を聞き取る力、場面や文脈の中で理由を表す言い方に気付き、伝え合う力。

・先生と中学校生活についてやり取りする。

T : C1, what do you want to enjoy in junior high school?  
C1: I want to wear a school uniform.  
T : Nice.

T : 中学生が中学校生活について話してくれるのを聞いて何が小学校と違うかメモしてみましょう。(聞き取りポイント)

・中学生が中学校生活について話すのを聞く。

In elementary school, the homeroom teacher teaches math, social studies and Japanese. But we have different teachers for each subject. And we have Sports Day. ...

小学校 教えてくれる先生は一緒

中学校 運動会が楽しそう 教科で先生が違う

C1: 中学校では教科によって先生が違うんだな。学校行事も楽しそうだな。学校行事について詳しく話したいな。(a)

・友達と、中学校で何をしたいか伝え合う。

B : What events do you want to enjoy?  
C1 : I want to enjoy Sports Day. I like running. I can run fast. I want to join the track and field club .How about you?  
B : I want to enjoy the music festival. I'm good at playing the piano.

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) スピーチやインタビューなどを推測しながら聞かせることで、理由の言い方に着目させ、それらの表現に慣れ親しむ機会を設定する。
- (d) 相手意識を持たせるために、目的、場面、状況を明確にするとともに、自分の気持ちや考えがよりよく伝わるように、ペアで互いのスピーチを聞き、取り入れたい表現に気付く機会を設定する。

●中学校生活で楽しみな部活動や学校行事について、理由とともに伝え合ったり、友達のスピーチを聞いて自分の考えや気持ちを伝える活動。

・何を話そうか、何を尋ねようか、どんな既習表現を使って伝えればよいか、考えて表現する力。

・スピーチをする。

C1: I want to wear a school uniform. I want to eat school lunch. I want to enjoy Sports Day. I want to join the track and field club. I like running.

T : 友達は自分の気持ちを伝えるためにどのような工夫をしているでしょうか。(d) (聞き取りポイント)

In junior high school, I want to join the English club. I like English. I want to study English. What do you want to enjoy? I want to enjoy School Trip. Thank you.

C1: 「中学校では」を入れると分かりやすいかな。問いかけも入れるといいな。(b)

・更に伝わる工夫をしてもう一度スピーチする。

C1: In junior high school, I want to eat school lunch. What do you want to enjoy? I want to enjoy sports day. I like running. I can run fast. I want to join the track and field club. What club do you want to join? Thank you.

・友達のスピーチを聞いて、質問したり感想を伝え合ったりする。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

工 文及び文構造

(7) f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むものを理解すること。このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれた掲示やパンフレット等を見て、その語句や表現の意味を推測することができる。

学校行事の思い出やお礼が書かれた手紙を読む場面において、小学校生活を共に過ごした友達の思いを知るために、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた文を推測して読み、意味を分かつようとする。

I went～. / I enjoyed～. / It was～. など活用頻度の高い基本的な過去形を含む文について理解する。  
思い出に残る学校行事について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた友達の考えや気持ちなどを読んで 意味が分かるために必要な技能を身に付ける。

学校行事の思い出やお礼が書かれた手紙を読む場面において、小学校生活を共に過ごした友達の思いを知るために、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた文を推測して読み、意味が分かる。

《既習事項との関連》

◇行った場所や食べたもの、楽しかったことなどを表す表現を場面とともに復習する。「Fun! Fun! えいご」の picture card 活用 (P78)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇音声とともに文字を添えた絵カード、文等に何度も触れさせる場面を設ける。

《他教科等との関連》

【国語】第6学年 出会いを通して学んだことについて話す活動  
【家庭】第6学年 お世話になった人に気持ちを伝える活動

主な資質・能力の系統  
「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと  
文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の大文字を認識する。

第4学年 聞くこと  
文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の小文字を認識する。

第5学年 読むこと  
音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句が書かれた掲示やパンフレット等を見て、絵や写真と結び付けながら、その語句の意味を推測することができる。

本単元

中学校第1学年 読むこと  
日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い紹介文や説明文、広告やパンフレットなどの概要を捉えることができる。

中学校第2学年 読むこと  
日常的な話題について、絵や図、表などを示せば、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。

中学校第3学年 読むこと  
日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：思い出に残る学校行事について書いた手紙を読み合い、互いの考えや気持ちを伝え合う

小学校生活を共に過ごした友達の思いを知るために（目的）学校行事の思い出やお礼が書かれた手紙を読む場面において（場面）互いの考えや気持ちを伝え合う（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D/E：児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●思い出の学校行事とその感想を伝え合う活動。

- ・友達が伝えたい思い出に残る学校行事とその感想について、語句や表現を推測して読み、意味を捉える力。
- ・先生たちの話を聞いてやり取りする。

T: Please tell me your best memory with us.  
ALT: O.K. Thanks to everyone, I have many wonderful memories. This is a letter for C1.

My best memory is our sports day. It was exciting. I enjoyed the relay race. When I dropped the baton, C1 cheered me in a loud voice, "Fight!" I was very happy.  
Thank you, C1.

C1: Oh, thank you very much.

T: What is your best memory?  
A: Music...祭. It was very fun.  
T: Oh, your best memory is our music festival. ...

T: Aくんは、音楽祭の感想に、funを使っていたね。感想を伝える表現は、他にどんな表現があるかな。（中間評価）  
C1: ALTの先生が言っていた exciting を使うと楽しさが伝わりそうだな。  
・思い出に残った学校行事とその感想を繰り返し伝え合う。

・思い出の学校行事と感想を、例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

・別の友達が書いた文を読んで、感想を伝える。

C1: 思い出は、music festival なんだね。It's nice. Do you like music?

●学校行事で行った場所や友達と楽しんだこととその感想を伝え合う活動。

・相手が伝えたい内容について、絵や写真、文字の音と語句や表現を結び付けて推測しながら読み、意味を捉える力。

・遠足に行った場所や楽しんだこととその感想を友達と繰り返し伝え合う。

C1: What's your best memory?  
B: My best memory is our field trip. This is a picture of our field trip.

C1: Oh, we were 2年生.  
B: That's right. We went to the sea. We enjoyed making a sand castle with D.  
C1: How was it?  
B: It was exciting.

・行った場所や友達としたことなど、思い出の学校行事について例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

・別の友達が書いた文を読んで、感想を伝える。

C1: Eさん... field trip.  
Eさん... went to the sea. (ドッジボールの写真だな)  
She enjoyed dodgeball. かな?

T: 読めなかったところはないかな。Eさんのどんなことが分かった？（中間評価）(c)  
C1: ドッジボールを楽しんだことが分かったよ。写真と enjoyed の後が、d で始まっているからドッジボールかなと思ったよ。(a)

C1: Eさん, your best memory is our field trip. You went to the sea. You enjoyed dodgeball. Nice.

・中間評価を生かして、別の友達の書いたものを読み、感想を伝える。

●学校行事の中で一番心に残っている思い出を通して、一緒に楽しんだ友達に手紙で気持ちを伝え合う活動。

・相手が伝えたい事柄や内容について、文字の音を頼りに語句や表現を推測しながら読み、意味を捉える力。

・一番心に残っている思い出の学校行事について伝え合う。

・一番心に残った思い出の学校行事について、これまで書きたててきた文を参考に書く。

To C1  
My best memory is our school trip. We went to the amusement park. I enjoyed riding a roller coaster. But I was tired. We ate parfait. It was delicious. C1, thank you very much.  
From F

・自分宛ての手紙を読んで、気持ちを伝える。

C1: Fさん... school trip. We went to the amusement park. ...ate ピー？パ？ It was デ...？

T: どんなことを書いてくれていましたか？  
C1: 修学旅行のことだけど、ここが分からないな。  
T: (分からない表現を板書) What did you eat in the amusement park? (中間評価) (d)

A: Potatoes.  
B: Ice cream.  
D: Parfait.  
C1: Oh, parfait!(b)

C1: Yes! It was delicious. Fさん, thank you.

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 目的や場面、状況のもと、イラストを参考に学校行事について何を言っているのか、どのような表現を使っているのかを考えている姿。
- (b) 思い出の学校行事を思い浮かべながら、音を頼りに何を言っているのかを考えている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) スモールトークでのやり取りをもとに、目的、場面、状況を明確にするとともに、イラストを用いて語句や表現を推測させる。
- (d) 思い出の場面を想起させ、分からない語句とその音とを結び付け、推測させる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

エ 文及び文構造

(ア) d 疑問詞のうち、疑問詞 (what, where) で始まるものを理解すること。

このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

言語習得のプロセス

- ① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。
② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。
③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。
④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問したり答えたり、それに反応したりして短い会話を行うことができる。

互いの考えや気持ちを知るために、自分が行ってみたいところや相手の行ってみたいところについて、簡単な語句や基本的な英語表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとする。

身の回りの物を表す語や、Do you want to~?/Where do you want to~?の表現について理解する。自分や相手のことについて、身の回りの物を表す語や、Do you want to~?/Where do you want to~?を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付ける。

互いの考えや気持ちを知るために、自分が行ってみたいところや相手の行ってみたいところについて、簡単な語句や基本的な英語表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う。

《既習事項との関連》

- ◇好きなものや事柄、したいことなどを表す表現を場面とともに復習する。
◇「Fun! Fun! えいご」(P30~33)の picture card を活用する。

《個々の子供の状況に応じた配慮》

- ◇デジタル教材等を活用し、音声と映像を一致させる。
◇言語の使用場面を意識できるよう、場面の写真や picture card などを活用する。

《他教科等との関連》

- 【社会】第6学年「世界の中の日本」
【総合的な学習の時間】修学旅行の取組、国際交流活動など
【学校行事】修学旅行、国際交流など

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 話すこと [やり取り]
自分や相手の好みなどについて、簡単な質問をしたり、質問に答えたりする。

第4学年 話すこと [やり取り]
自分や相手の好み及びほしいものなどについて、簡単な質問をしたり質問に答えたり、それに対して反応したりする。

第5学年 話すこと [やり取り]
自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、その答えに反応したりして短い会話を行うことができる。

本単元

中学校第1学年 話すこと [やり取り]
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。

中学校第2学年 話すこと [やり取り]
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。

中学校第3学年 話すこと [やり取り]
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：夢の旅行について話し合う

互いの考えや気持ちを知るために(目的)、友だちと夢の旅行について話す場面において(場面)、行きたいところやその理由などを伝え合う(状況)

T1/2: 教師 C1: 中心となる児童 A/B/D: 児童 (a)(b)・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●夏休みに行きたいところとそこでしたいことを簡単な語句や表現を用いて伝え合う活動。

- ・自分の行きたいところやそこでしてみたいことについて、既習表現を使って自分の言葉で表現する力。

T1: Where do you want to go, T2?
T2: I want to go to Kagawa.
T1: Oh, you want to go to Kagawa. What do you want to do?
T2: I want to eat udon.
T1: Nice! What kind of udon do you like?
T2: I like kitsune udon very much.

・友達と夏休みに行きたいところとしてみたいことについて伝え合う。

A: Where do you want to go, C1?
C1: I want to go to Osaka.
A: What do you want to do?
C1: I want to see manzai and eat Takoyaki.

T: C1さんは、「見たい」や「食べたい」など、したいことをたくさん伝えられましたね。みんなは、他にどんなことが伝えられましたか。(中間評価) (d)
C1: watch, touch, play, swim... (a)

・相手を替えて、やり取りする。(c)

C1: Where do you want to go, B?
B: I want to go to Okinawa.
C1: What do you want to do?
B: I want to swim in the sea. And I want to go to Churaumi Aquarium.
B: Where do you want to go, C1?
C1: I want to go to Osaka.
B: What do you want to do?
C1: I want to see manzai and eat Takoyaki. And I want to take pictures at Tsutenkaku.

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 自分のことを知ってもらうために、伝える内容を選択し、自分の考えや気持ちに合った表現を考えている姿。
(b) 相手の発言に関連のある質問をして、相手を理解しようとしている姿。

●相手の行きたいところやその理由について質問したり答えたりする活動。

- ・質問したいことを自分で考えて質問したり、質問に対して自分で考えて答えたりする力。
・友達と遠足で行ってみたいところと、その理由について伝え合う。

C1: Where do you want to go, C?
C: I want to go to the Shimanto River.
C1: Oh, Shimanto River. What do you want to do?
C: I want to swim in the river.
C1: It's nice.
C: Where do you want to go?
C1: I want to go to Katsurahama.
C: What do you want to do?
C1: I want to see otters at Katsurahama Aquarium.
C: That's nice.

T: 相手の考えや気持ちを理解するために、どんな工夫をしましょう。(中間評価) (d)
C1: 理由を尋ねたり、関連する質問をしたりするといんじゃないかな。(b)
・相手を替えて、やり取りする。(c)

C1: Where do you want to go, D?
D: I want to go to Niyodo River.
C1: Oh, Niyodo River? What do you want to do?
D: I want to ride a canoe.
C1: It's nice. Do you like swimming?
D: Yes. I like fishing, too.
C1: I want to go to Katsurahama.
D: Oh, Katsurahama. What do you want to do?
C1: I want to see otters at Katsurahama Aquarium.
D: Why?
C1: I like otters. They are cute.
D: I like otters, too.

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 事柄や相手を変えて繰り返し話す機会を設定し、適切な表現を選んで話したり、考えや気持ちを伝え合ったりすることに慣れさせる。
(d) 自分の考えや気持ちをよりよく伝えたり、相手のことをよりよく理解したりするための工夫点に気付かせる。

●行きたいところやその理由などを伝え合ったり質問したりして、夢の旅行について話す活動。

- ・その場で質問したいことを自分で考えて質問したり、質問に対して自分で考えて答えたりする力。

・友達と夢の旅行で行きたいところとその理由について伝え合う。

C1: Where do you want to go, A?
A: I want to go to Australia.
C1: Wow! What do you want to do?
A: I want to see koalas.
C1: It's wonderful! Why?
A: I like koalas. I want to take pictures with koalas.
C1: It's nice! Do you like animals?
A: Yes. I want to see kangaroos, too.
C1: It's great!
A: Where do you want to go, C1?
C1: I want to go to Italy.
A: Italy! Nice. What do you want to do?
C1: I want to see Colosseum.
A: Why?
C1: I like history.
A: Oh, you like history. What do you want to eat?
C1: I want to eat pizza. I want to buy olive oil for souvenirs.
A: It's fun!

T: 自分の考えや気持ちをよく知ってもらったり相手の考えや気持ちを理解したりするために、どんな工夫をすればいいですか。(中間評価) (d)

C1: 自分がしたいことを理由と一緒に言ったり、相手が言ったことに反応したりするといいな。(b)
・相手を替えながら、繰り返しやり取りをする。(c)

### 三つの柱の資質・能力

#### 学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

#### 知識及び技能

Ⅰ 文及び文構造

(7) f 動名詞や過去形のうち活用頻度の高い基本的なものを含むものを理解すること。

このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

#### 思考力、判断力、表現力等

Ⅱ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

#### 言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

#### 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分に関することについて、簡単な語句や基本的な表現を用い、内容を整理しながら話すことができる。

新しい学級の友達や先生に自分のことを知ってもらうために、自分の好きなことやできることについて、自分の考え、気持ちなどを整理し、工夫して伝えようとする。

I like ~./I am good at ~.など活用頻度の高い基本的な動名詞を含む文について理解する。

自分の好きなことやできることについて、I like ~./I am good at ~.などを用いて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付ける。

新しい学級の友達や先生に自分のことを知ってもらうために、自分の好きなことやできることについて、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝える。

#### 《既習事項との関連》

◇挨拶・自己紹介、色、動物、果物・野菜、飲食物、スポーツ、教科、月、序数、favorite等の既習表現を場面とともに復習する。

#### 《個々の児童の状況に応じた配慮》

◇リズムやイントネーションを手の動きで示す。  
◇状態や気持ちを表す表現を確認できるように picture card を掲示する。  
◇デジタル教材を活用し、音声と映像を一致させる。

#### 《他教科等との関連》

【国語】第5・6学年

意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動  
【特別活動】学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

主な資質・能力の系統

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 話すこと〔発表〕  
自分の好き嫌いについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す。

第4学年 話すこと〔発表〕  
自分の好き嫌い、欲しいものなどについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す。

第5学年 話すこと〔発表〕  
自分に関することについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、できるだけたくさん話すことができる。

本単元

中学校第1学年 話すこと〔発表〕  
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

中学校第2学年 話すこと〔発表〕  
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

中学校第3学年 話すこと〔発表〕  
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：新しい学級の友達や先生と自己紹介する

自分のことを知ってもらうために（目的）学級で自己紹介する場面において（場面）好きなことやできることを伝える（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D：児童 (a)(b)・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●自己紹介を聞いて概要を捉えるとともに、好きなことについて聞いたり言ったりする活動。

・自分の好きなことについて既習表現を使ってどう表現するか考え、自分の選んだ言葉で伝える力。

Hello, I'm Nagao Koji. I'm from Aki-City. Nice to meet you. I like dogs. I like soccer. I can play soccer well. Do you like soccer?

・先生の話聞いたあと、自分が好きなものについてやり取りする。

C1: 先生の自己紹介だね。自分のことを知ってもらうには、like を使って好きなことを伝えたいんだ。(a)

C1: Hello, I'm Yuta. I like basketball.  
A: Hello, I'm Mako. I like rabbits. Do you like rabbits?

T: Aさんは自分の好きなものを友達も好きか聞いていましたね。Aさん、どうして質問しようと思ったのですか。(中間評価) (c)

C1: 質問することで、友達の考えを知ったり、会話が続きたりするんだ。(a)

C1: Hello, I'm Yuta. I like basketball. How about you?  
B: Hello, my name is Takeru. I like pizza. What food do you like?

・やり取りをもとに内容を整理し、自己紹介する。

C1: 友達に聞かれたことを自己紹介に付け加えよう。(a)

C1: Hello, I'm Yuta. I like basketball. What food do you like? I like curry and rice.

●自分のできることや好きなことに理由をつけて伝え合う活動。

・新しく獲得した表現や既習表現を使い、自分のできることや気持ちを伝える力。

I like cooking. It's fun. Last Sunday, I cooked dinner. It was delicious. What Chinese food do you like? I can't cook gyoza, but I can cook fried rice.

・先生の話聞いて、できることについてやり取りをする。

C1: バasketをすることが好きって言えば分かりやすいかも。気持ちや感想も伝えるといいな。(a)

C1: I like playing basketball. Can you play basketball?  
A: Yes. I can play basketball. It's exciting.  
C1: Nice! I can....得意って、canでいいのかな?

T: 友達とのやり取りで気付いたことはありますか。(c)

T: 伝えなかったけど、どう言えばよいか分からなかったことはありましたか? 「得意」を言い換えて考えると、知っている英語が使えそうですね。(中間評価) (d)

・やり取りやみんなで作った表現をもとに内容を整理し、自己紹介する

C1: さっき教えてもらった英語を使って、「バスケボールが得意」って言ってみよう。(a)

C1: Hello, I'm Yuta. I like basketball. I'm good at playing basketball. It's exciting. What food do you like? I like curry and rice.

●他者に配慮しながら自己紹介し合う活動。

・情報を整理し、聞き手が理解できるように他者に配慮しながら自己紹介をする力。

・ペアで自己紹介し合う

C1: 名前、好きなスポーツ、誕生日、好きな食べ物について知ってもらいたいな。どの順番で話そうかな。(a)(b)

C1: Hello, I'm Yuta. I like basketball. I'm good at playing basketball. It's exciting. My birthday is November 15th. What food do you like? I like curry and rice.

D: Hello, I'm Okada Sayo. My birthday is March 8th. I like dodgeball. I can throw the ball fast. I like P.E. It's fun! Thank you.

T: 友達の発表で、よかったところや取り入れたいところはありますか。(中間評価) (c)

C1: 初めて同じクラスになった友達に、名前も言って覚えてもらおう。先に誕生日を言ったらいいかな。ゆっくり言ったり、繰り返したり、ジェスチャーをつけたりすると分かりやすいね。最後に Thank you を言うといいね。(a)(b)

C1: Hello, I'm Sakamoto Yuta. My birthday is November 15th. I like basketball. (ジェスチャーをつけて) I'm good at playing basketball. It's exciting. What food do you like? I like curry and rice. Thank you.

#### 見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 自分のことを知ってもらうために、伝える内容を選択し、自分の気持ちに合った表現を考えている姿。
- (b) 聞き手に分かるように、伝える順番を工夫したり、反応を確かめながら話したりしている姿。

#### 見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) やり取りや発表を振り返る場を設定し、友達のよさや工夫に気付かせる。
- (d) 自分の考えや気持ちがよりよく伝わるように、誰に何のために伝えるのか明確にさせ、他者に配慮して発表させる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

知識及び技能

エ 文及び文構造

(1) c 「主語+動詞+目的語」のうち主語+動詞+名詞・代名詞を理解すること。このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

言語習得のプロセス

① 子供がコミュニケーションの目的・場面・状況を把握する。

② 目的に応じたコミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のためのコミュニケーションを行う。

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめを行う。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、その中の一文あるいは一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。

自分が住みたい夢の町について知ってもらうために、地域のよさや課題、それに対する自分の考えや気持ち、願いなどを友達と伝えようとする。

We have~/We don't have~ など主語+動詞+名詞・代名詞について理解する。自分の住んでいる地域について、We have~/We don't have~.などを活用して伝えたいことを書く技能を身に付ける。

自分が住みたい夢の町について知ってもらうために、地域のよさや課題に対する自分の気持ちや考え、願いなどを伝え合ったり、例を参考に語順を意識しながら書く。

《既習事項との関連》

◇動作や状態、気持ちなどを表す表現を場面とともに復習する。「Fun!Fun!えいご」のpicture card 活用 (P70、71)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇四線ワークシートを用いて、文字の位置を捉えやすくする。◇お手本とワークシートを上下に置いて書かせるようにする。

《他教科等との関連》

【国語】第6学年 事象を説明したり、意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動 【総合的な学習の時間】第6学年 町づくりや地域の活性化のために取り組んでいる人々や組織

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：自分の憧れの町をポスターセッションで伝える

自分が住みたい夢の町について友達に知ってもらうために（目的）学級で紹介し合う場面において（場面）互いに自分の考えを伝え合う（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D：児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●自分の住んでいる地域のよさについて、理由とともに友達と伝え合う活動。

- ・自分が住んでいる地域について、既習表現や新しく獲得した表現を用いて自分の考えを伝える力。

I live in Kochi city. We have a big library. It's called Otepia. I like reading books. We don't have an amusement park. I like roller coasters. I want an amusement park.

・教師と児童でやり取りを行う。(c)

T : What do we have in Ino Town? C1 : Niyodo river. T : Oh, we have Niyodo River. C1 : We can do canoeing. I like canoeing. Do you like canoeing? T : No. I don't like canoeing.

・友達とやり取りを行う。(a)

A : What do we have in Ino Town? C1 : We have a paper museum. A : Yes. It is nice! C1 : How about you? A : We have a big jinja. We can enjoy festivals.

T : 自分の選んだ場所のよさを伝えることができましたか。Aくんはcanを使っていましたね。(中間評価) C1 : canを使うと理由をうまく伝えられそうだな。

・友達とやり取りを繰り返し行う。

- ・自分の住んでいる地域のよさについて、例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

●自分の住んでいる地域にあればいいと思う施設等について友達と伝え合う活動。

- ・なぜそう思うのか自分の考えを付け足したり、語順を意識しながら英文を書き写したりして表現する力。

・友達とやり取りを行う。

B : We don't have a swimming pool. I want a swimming pool. I like swimming very much. How about you? C1 : Park don't have. I like soccer. I park want.

C1 : 「公園が欲しい」って言いたかったんだけど、何だか違う気がするなあ。

T : 黒板の絵カードを見てみましょう。日本語と英語の語順は同じでしょうか。(中間評価)

・中間評価を通して気付いたこと等を自分の表現に取り入れ、2回目のやり取りを行う。

・最後に自分で書きたい内容をペアで伝え合う。

C1 : We have a paper museum. We can make a postcard. We don't have a park. I like soccer. I want a big park.

C1 : ポスターには、こんな内容を書きたいな他にどんなことを伝えようかな。

- ・自分の住んでいる地域にあればいいと思う施設について日本語と比較し語順を意識しながら、例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

●自分が住みたい夢の町について、書きためてきた文を参考に、相手に伝わるように工夫して書く活動。

- ・読み手に自分の考えや気持ちが伝わるように、活字体の大文字・小文字、語と語の区切り等に注意しながら例文を参考に書く力。

We have [ ]. We don't have [ ]. I like [ ]. I want [ ].

T : (良い例と悪い例の文章を比較させる) 読む人にはどちらが分かりやすいでしょうか。(中間評価) (d)

(悪い例を提示) kochicityisnice! wehaveabiglibrary ...

C1 : あれっ? こっちは何だか読みにくいな。

C1 : そうか。単語と単語の間を空けてないからじゃないかな。(b)

写真 Ino Town is nice! We have a paper museum. We can make a postcard. We don't have a park. I want a big park. イラスト

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 明確になった目的・場面・状況のもと、自分の住んでいる町について何をどのように伝えようかと考えている姿。 (b) 自分の気持ちを分かってもらうためには相手が分かるように書くことの大切さに気づき、読み手により伝わりやすいように工夫している姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 活動の目的や場面を明らかにし、伝える内容や使用する表現をデモンストレーションやスモールトークで示す。 (d) 四線の上に活字体を正しく書いた文とそうでない文を提示し、どちらが読み手に伝わりやすいかを考えさせる。

本単元

主な資質・能力の系統 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の大文字を認識する。

第4学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の小文字を認識する。

第5学年 書くこと 自分のことや身近で簡単な事柄について、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

中学校第1学年 書くこと 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをメモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第2学年 書くこと 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第3学年 書くこと 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて文章構成の特徴を意識しながら、まとまりのある文章を書くことができる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

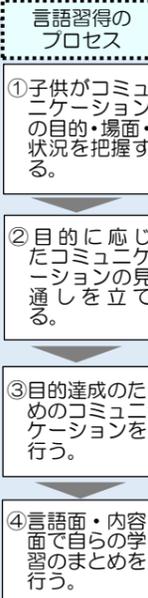
知識及び技能

エ 文及び文構造

(ア) f 動名詞や過去形のうち活用頻度の高い基本的なものを含むものを理解すること。このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

思考力、判断力、表現力等

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。



「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、その中の一文あるいは一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。

夏休みに行った場所や食べたもの、楽しかったことなどを紹介する場面において、来年の夏休みに一緒に過ごしたいと友達に思ってもらえるよう、自分の気持ちや感想などを工夫して友達と伝え合おうとする。

I went~. / I enjoyed~. / It was~. など活用頻度の高い基本的な過去形を含む文について理解する。夏休みの思い出について、I went~. / I enjoyed~. / It was~. などを用いて、自分の考えや気持ちを例を参考に書く技能を身に付ける。

夏休みに行った場所や食べたもの、楽しかったことなどを紹介する場面において、来年の夏休みに一緒に過ごしたいと思ってもらえるよう、慣れ親しんだ語彙や表現を用いて例を参考に自分の気持ちや感想を、語順を意識して書く。

《既習事項との関連》

◇状態や気持ち、食べ物、場所を表す表現を場面とともに復習する。「Fun! Fun! えいこ」の picture card を活用する。(P78、79)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇四線ワークシートを用いて、文字の位置を捉えやすくする。◇書き写すことが困難な場合にはなぞり書きをさせる。

《他教科等との関連》

【国語】第1・2学年 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動

主な資質・能力の系統 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

第3学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の大文字を認識する。

第4学年 聞くこと 文字の読み方が発音されるのを聞いて活字体の小文字を認識する。

第5学年 書くこと 自分のことや身近で簡単な事柄について、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

本単元

中学校第1学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをメモなどを基に整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第2学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

中学校第3学年 書くこと 日常的話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて文章構成の特徴を意識しながら、まとまりのある文章を書くことができる。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

単元ゴールとなる言語活動：夏休みの思い出アルバムを互いに紹介し合う

来年の夏休みに一緒に過ごしたいと友達に思ってもらうために（目的）学級で紹介する場面において（場面）書いたものを互いに読み合う（状況）

T：教師 C1：中心となる児童 A/B/D：児童 (a)(b)・・・見方・考え方を働かせる子供の姿 (c)(d)・・・見方・考え方を鍛える教師の手立て

●夏休みに行った場所とその感想を簡単な文で友達と伝え合う活動。

- ・自分の伝えたい夏休みの出来事や感想について既習表現を使ってどう表現するか考え、自分の選んだ言葉で表現する力。

I went to an exciting place in Muroto. It's not the Geo Park. I saw a lot of fish. I went to the Muroto Schoolhouse Aquarium with my family.

- ・先生の話聞いてやりとりする。(c)

T：Where did you go, Kenta? C1: Kagawa. T：Oh, you went to Kagawa. Nice! What did you eat? C1: Udon. T：Oh, you ate udon. ....

- ・友達と夏休みに行った場所とそこでしたことについて伝え合う。

C1: Where did you go? A：I went to Tokyo. Nice! How about you? C1: I went to Kagawa. ....

T：Aくんは行った場所の感想をNiceと伝えてありますね。自分の気持ちを伝える表現は他にどんな表現がありますか？(中間評価) C1: fun を使うと友達に楽しさが伝わるんじゃないかな。(a)

C1: Where did you go? B：I went to Osaka. Nice! How about you? C1: I went to Kagawa. Fun!

- ・自分の行った場所について、例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

●夏休みに行った場所や感想、したことなどを付け加えて友達と伝え合う活動。

- ・英語と日本語の違いに気付き、語順を意識しながら英文を書いて、自分の気持ちを表現する力。

・友達と夏休みに行った場所やそこでしたことについて気持ちを加えて伝え合う。

C1: I went to Kagawa. It was fun. I ate udon. How about you?

A：I went to Tokyo. I ate pizza. Yummy. C1: That's nice. I went to the mountain. I hiking 楽しかった。 A：Good!

T：「ハイキングが楽しかった」って、どんなふうに言ったらいいですか。 I ... / Hiking ... (中間評価)

C1: I enjoyed の順番かな? hiking は enjoyed の後ろかな。

C1: I went to Kagawa. It was fun. I went to the mountain. I enjoyed hiking.

B：Oh, nice! C1: How about you? B：I went to the park. I enjoyed playing soccer. ...

- ・自分の感想やしたことについて、日本語と比較し語順を意識しながら、例文を参考にワードボックスから言葉を選んで書き写す。

●書きためてきた文を参考に、相手に伝わるように語の順番などを工夫して書く活動。

- ・情報を収集、整理し、自分の気持ちや感想がよりよく伝わるように英文を書いて表現する力。

・夏休みの思い出について、ワードボックスから慣れ親しんだ表現を選んで書く。

I went to [ ]. It was [ ]. I ate [ ]. It was [ ].

- ・思い出アルバム用シートに清書する。

(予想される子供の表現例)

語と語の間にスペースがなく続けて書くなど。

Iwentto Kagawa. It was fun. I udon ate. ....

T：だれに、何のために書いているのですか？(中間評価) (d)

C1: みんなに読んでもらうのにどんなふうにと分かりやすいかな? どんなことが工夫できるかな?(b)

思い出の絵

I went to Kagawa. It was fun. I ate udon. It was delicious. I enjoyed hiking.

見方・考え方を働かせる子供の姿

- (a) 何を話そうか、どんな言語材料を用いれば表現できそうか、言葉を選んでいる姿。(b) 例を参考に、気持ちが具体的に伝わる順番など、どうやって伝えればよいのかを情報を整理して工夫している姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- (c) 目的や場面、状況を明らかにして、スモールトークなどで多くの表現を提示する。(d) 自分の気持ちがより伝わるように、誰に何のために伝えるのかを明確にさせる。